

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	25220206	研究期間	平成25年度～平成29年度
研究課題名	網羅的糖鎖解析による新規癌マーカーの探索と診断技術の開発	研究代表者 (所属・職) (平成30年3月現在)	西村 紳一郎（北海道大学・大学院先端生命科学研究院・教授）

【平成28年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、研究代表者らが開発した糖鎖解析法を基盤として、癌マーカーの探索と各種がんの臨床的な診断技術の開発を目的としている。当初目的は明確であり、それに伴う研究組織も臨床医を含めた実質的な組織が組まれている。実際、癌、精神疾患、先天性疾患の糖鎖マーカーを発見している。

独創性もあり、期待される点も多いが、当初の目的（癌マーカーの探索と診断技術の開発）から少し方向性があいまいになっているため、今後、当初目的に沿った研究の進展に期待したい。

【平成30年度 検証結果】

検証結果	当初の目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。
A-	<p>独自技術である糖鎖構造解析プラットフォームを活用し、臨床医を含めた多様な研究者を研究代表者が統括することにより、本組織ならではの研究が展開された。癌組織に特徴的な糖鎖構造に関する情報を蓄積していくことは、癌マーカーの探索と診断技術の開発という視点で重要な方向性であり、そのような観点で一定の成果を上げたものと評価できる。</p> <p>本来の目的が曖昧になった側面もあるが、課題の性格上、各論的なデータ収集が前提にならざるを得ない部分があり、その中で新たな方向性を模索した結果と理解する。</p>